

平成一五年度早稲田大学史学会大会報告

○平成一五年度早稲田大学史学会大会

(期日…一〇月一八日(土) 早稲田大学文学部校舎)

▽研究発表

〔日本史部会〕

名主「関口家」の生活と地域

文学部学生 木下はるか氏

武田科学振興財団所蔵『聖徳太子伝暦』について

大学院学生 榊 佳子氏

石橋湛山と戦時下の経済人脈

大学院学生 上田 美和氏

城館からみた豊臣期の奥羽 東京都立中野工業高校

松岡 進氏

〔東洋史部会〕

長沙子彈庫楚帛書群に見える月名について

COE客員研究助手 森 和氏

宋代三級行政体制の形成 ―元豊帳法の分析から―

大学院学生 小林 隆道氏

モンゴル人民政府の政治闘争とボドーの肅清

大学院学生 青木 雅浩氏

バフリー・マルムーク朝期における水利事業について

―ナースィル運河開削の経緯を中心に―

平成一五年度早稲田大学史学会大会報告

〔西洋史部会〕

生活改革運動 ―その本質と波及―

大学院学生 高橋竜太郎氏

ラッセル内閣期(一八四六―一八五二年)におけるピール派

大学院学生 鈴木美由起氏

ドイツ・トゥルネン運動と近代オリンピック復興運動

―近代ドイツ・ナショナリズムに関する一考察―

大学院学生 小原 淳氏

〔考古学部会〕

北海道後期旧石器時代前半期石器群の様相

大学院学生 熊林 佑允氏

阿玉台式土器の再検討 ―特に勝坂式土器との関係に注目して―

大学院学生 井出 浩正氏

複式炉からみる動態について

―縄文時代中期末の東北地方を中心に―

大学院学生 丹野 智之氏

下野の古墳時代中期における埴輪の変遷

大学院学生 米澤 雅美氏

▽総会 第一会議室

▽シンポジウム

場 所 早稲田大学文学部第一会議室

テ ー マ 交錯する日米の日本研究

総合司会

西洋史学専修 竹本 友子氏

趣旨説明

東洋史学専修 李 成市氏

報 告

戦後における日米の近代史研究

国際教育センター 岡本 公一氏

異文化へのまなざし―E. S. モースの見た日本―

考古学専修 菊池 徹夫氏

コメント

北海学園大学 犬飼 裕一氏

東洋史学専修 近藤 一成氏

討 論

▽懇親会 高田牧舎

〈日本史部会〉

名主「関口家」の生活と地域

―「日記」記述が指向するもの―

木 下 はるか

近世の地域社会については、「家」や村などの社会環境のあり方やその強制力が指摘されている。だが、個々人が家・村・共同体や当時の諸環境の中でどのように日々の生活を切り開いていたのかという具体層は、まだ十分には明らかにされていない。そこで村方に残る「日記」とその関連文書を中心史料とし、近世農村における人々の生活の一端を明らかにしたい。本報告では武蔵国橘樹郡生麦村（現在の神奈川県横浜市鶴見区）の豪農関口家に残る「関口日記」を一事例として、「日記」の記述形式や記述者の変化に留意しながら、二代目当主藤右衛門を中心に関口家の相続、財産管理のあり方を明らかにする。「関口日記」を残した関口家は宝暦年間に分家した家であり、二代目の当主以降は名主もつとめるなど、地域における指導者層の家であった。

まず日記の記述形式については、初期の日記には雇用記録や日々の金銭の出納が細かく記載されていた。だが徐々に家の経営や村政に関わるまとまった金銭出納の記録が日記部分と分けて記載されるようになり、「日記」の形態も整ってくる。次に日記の記述者につ